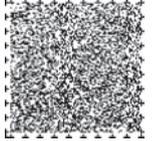


社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第63号



〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-2 3-2 7 2 0
Fax: 0853-2 3-2 7 2 1
E-mail: shien@heartpia.or.jp
ホームページ
http://www.heartpia.or.jp

<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

「福祉就労から一般就労へステップアップ」と題して

出雲市障がい者施策推進協議会に就労支援ネットワーク会議という検討チームがあります。

定期的集まって障がいを持つ方の就労に関する事を話し合い、研修会やイベント等の企画・運営をしています。

コロナ禍ではありますが、今年度も企業との繋がりを目的とした「企業情報交換会」、就職の為の面接技術などを学べる「ジョブガイダンス」(今年度は映像制作)、また既に一般就労をされている方のアフターフォローの場の提供として「働く仲間のコーヒータ임」、そして今年度より「福祉就労から一般就労へステップアップ」と題して、出雲市内の就労系事業所、精神科デイケアのスタッフの皆さんに集まって頂きました。

目的としては、一般就労に向けた支援ノウハウの普及浸透を目指して、利用者やメンバーから「一般就労したい！」と言われたら具体的にどのようにスタッフとしてフォローしたらいいのか、どこと連携しながら進めたらいいのか、障害者雇用制度をどう活用すればいいのかなどを情報共有し、支援者側の知識を高める事を目的としています。

第1回は、令和4年12月6日に開催し、3件の事例について紹介しながらグループワークをしました。その事例はいずれも事業所スタッフの見立てに反して上手く一般就労に繋がったケースを紹介しました。

「予想に反して・・・」、「意外にも・・・」と当事者には非常に失礼な言い方ですが、普段の作業の様子を見立てるスタッフの考え次第では、次に進める機会を奪う可能性もあるという事です。

自分自身も何度か経験していますが、支援者側の見立てって曖昧であり、その方の全てを知り尽くす事は無理なのです。

現場でやってみる事でこれまで無かった対応力を発揮したり、企業側から適切な対応が得られたり、障がい特性をしっかりと理解して頂いたりなど職場環境に恵まれる事で、見立ての低かった利用者も安定就労を実現出来た方は多く存在します。

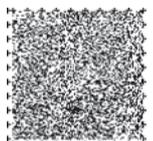
「一般就労したい！」と希望する利用者やメンバーを支えていけるよう今後も活動を続けてまいります。

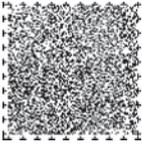


(文:相談支援事業所ハートピア出雲 萬代 祐二)

もくじ

- 福祉から一般就労へステップアップ・・・・・・・・・・1 p
- 発語がないお子さん支援の研修報告・・・・・・・・・・2 p～3 p
- 障がい者アート作品展に作品展示&新人紹介・・・・・・・・4 p





研修
『理解力はあるが、発語がないお子さんの支援を考える』に参加。

＜講義内容のポイント報告＞

【発語がないお子さんの実態】

「理解してるんだけど、言葉が出ない、少ない、文で話さない」という方があられませんか。実際は、状況判断や相手の表情を手掛かりにしているだけで、言語理解も発語もゆっくりだったということがあります。他にも、自分に備わる話す機能に気付いていない、話す経験が乏しい、発声発語器官の発達が気になる、対人不安など心の問題、引っ込み思案な性格、吃音や場面緘黙など心理・言語的背景などがあります。

言葉が出ない＝自閉症ではなく、学習障害や特異的言語発達障害、言語発達障害などの可能性もあるの
できちんとアセスメントするのも大切です。

支援の基本は、本人の実態は何かを考えること。実態が分かり、「本人に分かる」言葉や状況で伝えるだけでも発語は変わってきます。

【ことばの発達は、理解が先！】

「理解（インプット）」が先行し、「表出（アウトプット）」が追いかけます。話す言葉が少なくても理解している言葉は話している言葉より多いのです。

理解力には、言語コミュニケーションである言語理解（語彙、意味、文法）と非言語コミュニケーションである状況理解（物品の使い方、生活習慣）や相手の意図の理解（表情、視線、距離感、声色、動きなど）の両方が必要です。

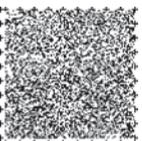
【支援が必要である子への心がけ】

強制的に言わせるのは、言えなかったときに失敗体験になりやすいです。“ポロっと言えちゃう”くらいがベスト。

- ①同じものを見て話す（本人が何をみているのかよく観察してみましょう）
- ②同じ量・長さ・レベルの言葉を選ぶ（幼児語？単語？二語文？）
- ③子どもの関心・興味のあるものから
- ④注目させるのが先、言葉掛けが後
- ⑤「これなんだ？」を連発しない
- ⑥まねを促すときはさりげなく、「まねの見本」が効果的
- ⑦発音を間違えても気にしない
- ⑧間違いを指摘せず正解を伝える

【身振りサインも使っていこう】

滑舌や発声の練習が難しい低年齢などの場合は身振りサインを使うことが多いです。音声だと、①概念→②語彙探す→③音を並べる→④運動（話す）という流れで話しますが、



身振りだと①概念→②語彙探す→③サインの実行となるので、「音を並べる」ところがスキップできます。子どもも音声より模倣しやすく、周りにも分かってもらいやすいのもメリットです。ポイントは身振りが必要な状況や表現したい物がある時にやること（トイレ行こう、これはリンゴだね等）。何でも無い時にすると混乱します。

身振りサインを使うと（使っているから）言葉が出ないのではないかと思うかもしれませんが、答えはNO！！です。 音声が出せないから身振りで伝えているのです。他にもコーダ（耳の聞こえない両親が産んだ子ども）は両親は手話ですが、子どもは手話も日本語も使えるのも良い例です。



【関わりで一番大切なこと】

「コミュニケーションが便利で楽しい」と思えるようにすることが一番大切です。それを知らないと言葉の練習や話す意欲が持てません。自分で伝えられると本人のできる伝え方ができ、自分で自分の人生を歩んでいる感覚が持てるのです。

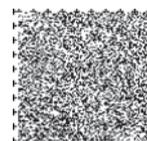
コミュニケーションは便利で楽しい！



出展：ことばの相談室ことり / コトリドリル
言語聴覚士 寺田奈々

◆まとめ・感想◆

口頭指示は理解できるのに発語がほとんどないお子さんにとっては、今は身振りサインを増やしていくことが必要であることや、身振りサインが発語を阻害しないことを認識して、「コミュニケーションは便利で楽しい」「理解が先で、表出が後」「無理強いはいらない」を意識しながら、今後も療育に取りくみます。(文：ハートピア出雲スマイル 水 恵美子)



令和4年度「鳥根県障がい者アート作品展」に 作品が展示されました



令和4年度「鳥根県障がい者アート作品展」が12月9日から11日まで鳥根県立美術館ギャラリーで行われました。

今年度の放課後等デイサービスハートピア出雲ステップの子どもたちが制作した作品は「スタンプアート 季節のうつろい」です。

トイレットペーパーの芯やストロー、梱包材やクッション材、紙皿、紐、段ボールなど身近にあるものを使っていろいろなスタンプやステンシルの型を作り、図案を考えました。その後、水彩絵の具を使って大きさや形、方向、色の濃淡などスタンプの押し方を変化させて春、梅雨、夏、秋、冬の季節ごとの特徴を表現しました。



●今年度の展示作品「スタンプアート 季節のうつろい」

移り行く季節、その季節の中に子どもたちが持っているそのイメージを重ね合わせています。色を重ねていくことでより豊かになりました。子どもたちの小さな工夫がたくさん詰まった作品です。

(文：ハートピア出雲ステップ 児童発達支援管理責任者 佐々木 圭子)



●共同制作に励むステップの子どもたち



●手づくりスタンプに水彩絵の具をつけて…

※写真は本人及びご家族の了承を得て掲載いたしました。

よろしくお祈いします！～新人職員の紹介～

12月よりハートピア出雲の看護師として入職しました多田納奈緒と申します。ご利用者さんとそのご家族さんの気持ちを大切に、安心して通ってもらえるように努めていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお祈いします。



多田納 奈緒

編集 後記

◆昨年末の紅白を最後に歌手活動を休止することになられた氷川きよしさん。「箱根八里の半次郎」でのデビューが2000年。折しも福祉の世界では介護保険制度がスタートした年でした。当時、全国の高齢者施設ではレクリエーションなどの時間に氷川さんの曲が流れて利用者さんが楽しまれたことと想像します。ハートピア出雲の障がい者デイサービス（当時のサービス名）でも音楽活動などで歌ったり聴いたりしたことがついこの間のように入じます。彼は活動休止ですが福祉業界は休みなく続きます（笑）。【編集長 米山】